

令和2年度 第1回丹波市環境審議会会議録

開催日：令和2年8月25日（火）

開会：13時30分

閉会：15時30分

会場：氷上住民センター 大会議室

出席委員：坂谷高義委員、安田真理委員、後藤和敏委員、近藤明委員、横山真弓委員、田中智之委員、倉橋すみ子委員、梅垣守明委員、山科ゆみ子委員、三橋弘宗委員、三浦仁志委員、足立はるみ委員、宮川五十雄委員

事務局：谷口市長、余田部長、井上課長、足立係長、山下主幹、村上主事

1 開会（事務局）

令和2年度第1回丹波市環境審議会を開会いたします。

2 委嘱書の交付（事務局）

最初に、市長から「委嘱書」の交付をさせていただきます。

お手元の〔資料①〕丹波市環境審議会委員名簿の順に交付を行います。

3 市長あいさつ

本日、皆様方なにかとお忙しい中、令和2年度第1回丹波市環境審議会にご参集いただきまして本当にありがとうございます。ただいま委嘱書を交付させていただきました。これから2年間丹波市の環境問題に最前線で立ち向かう、そのような課題にご対応していただくということで、大変お世話になりますが、よろしく願い申し上げます。丹波市の環境基本計画は10年計画になっておりまして、平成29年から令和8年までということでございますので、来年でほぼ中間点ということになります。その時点で見直しをする、そういう作業も2年間のうちにでてくるということもございます。昨年、丹波市では市民憲章を制定しまして、その中で、みなさん見ていただいた方もあるかもしれませんが、最初に「天から降る水のしずくを北と南に分ける地、丹波市。」となっております。これは、女流作家の玉岡かおるさんに作っていただいたわけでありますが、これが丹波市にとって象徴的な水分れを表しており、丹波市にとっての一つの売りだということ、私は就任以来、多くの事業で引継ぎのような事業が多かったわけでありますが、私のオリジナルの事業として水分れフィールドミュージアムが来年3月にオープンします。これは絶対にやっぱり世に出していくべきだという意識でおります。予算規模としては、3億円という大変大きな金額でありましたが、年間2,000人しか入らない水分れ資料館でしたが、新しい施設が完成したあかつき

には数年後に年間 30,000 人が入る施設にしたいということで、人と自然の博物館の三橋先生に大変お世話になって、これを進めているところでございます。私もちょくちょく工事の現場を見に行くわけですが、行くたびに出来上がっているし、千代田池の周辺で里山づくりのように整備をされています。そこは、市というよりも地元の団体の方々がフィールドミュージアム友の会のような団体を立ち上げながら進めておられ、そのことが何よりもすばらしいなど。単に市だけではなく、地元の盛り上がりでされています。フィールドミュージアムが、建物だけでなく、まさにフィールド全体がミュージアムであることを示す動きとして大変すばらしい。私も会員ナンバー38 番の会員になっています。水分れの話ばかりして恐縮ではありますが、昨年、国道整備の関係で上京しました際に、大勢の国会議員の方々にお出會いしたわけですが、その中で、前の滋賀県知事の嘉田由紀子さんに挨拶をしますと「氷上の方ですか。」と言われまして、「なぜ氷上と分かるんですか？」と聞き返しました。あの方はもともと川とか自然、環境の専門家なので、「琵琶湖ミュージアム」を作った時には、水分れ資料館を参考に見に行ったんです。」こういうふうに言われました。嘉田由紀子さんの目に留まるほど、そこは環境のひとつのシンボルになるような場所なんだと思っています。あと一点は、NHK で「ブラタモリ」という番組があります。水分れフィールドミュージアムができたあかつきには、是非ともタモリさんに来ていただいて、NHK でなんとか紹介してもらえないだろうかと思っています。タモリさんは、かなり地形のことに詳しいです。色んな筋から NHK にはたらきかけて、いつの日か、近日中に水分れの地が NHK で紹介されることを願っています。そのことがきっかけで丹波市の自然、環境の美しさといったことを世に知らしめる機会になると思っています。そういうことで、多くの方々の知的好奇心をくすぐる、そんな施設になり、そして丹波市に水分れありというような地に育っていけば本当にうれしいなと思っています。第 2 次環境基本計画には目指すべき将来像を掲げており、丹波の森と農を活かし、人と自然が共生する源流のまち、まさに日本海と瀬戸内の方に源流のまちを目指して、これから委員の皆様方に積極的なご支援をいただきますことを心からお願いいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひ申し上げます。

4 委員紹介

(事務局)

丹波市環境審議会委員名簿の順に簡単に自己紹介をお願いいたします。

ここで会議の成立について確認させていただきます。丹波市環境審議会運営規則第 3 条に定める委員の過半数以上の出席がございましたので、本日の審議会が開催できることを確認しております。

5、6 会長、副会長選出、会長及び副会長あいさつ

- ・丹波市環境審議会運営規則第2条により、会長・副会長の選任について諮った。
委員より「事務局に一任」の声あり、異議なしと認められる。
- ・事務局より〇〇委員を会長に指名。
- ・拍手により〇〇委員が会長に選出された。

(会長よりあいさつ)

ただいま丹波市環境審議会の会長にご指名いただきました〇〇でございます。前年に引き続き今期もよろしく願いいたします。さきほど市長からお言葉がございましたように、もうすぐ水紛れミュージアムのオープンが、この2年の間に行われます。それを起爆剤として、丹波市をどのように発展していくか、環境面でどのように支えていくかということを審議するというのが、この委員会で与えられた使命かなと思います。是非、皆さんご協力をいただきまして、丹波市をより良い、住みやすいまちにさせていただきたいなと思いますので、ご協力よろしく願いいたします。

- ・会長より〇〇委員を副会長に指名。

(副会長よりあいさつ)

ご紹介いただきました〇〇です。このたび、ご指名を受けましたけれども、このような立場に慣れていなくて、お役に立てるかどうかが少し不安でしたが、会長のような立派な方が横にいらっしゃいますので、微力ながら一緒に頑張りたいと思います。私事なんですけど、実はずっと以前に青垣いきものふれあいの里の開設準備委員として、開設とか運営に携わったときがございました。そのとき以来、氷上回廊に関心をもちまして、それからずっと氷上回廊と丹波の自然というものを学習してきたんですが、もうそのときから思うと30年以上経っています。その当時すごく珍しい植物とか昆虫、加古川水系にたくさんの魚がいたのが、減ってきたりとか、非常に色んなものがなくなってきています。しかし、それでもこの氷上回廊という特殊な地形の中で、この丹波の貴重な動植物がまだまだかなり残っているように感じます。氷上回廊という地形や、貴重な丹波の自然というのは、まったく他所へ動かすことのできない、丹波市の財産だと思いますので、今後もずっとこの貴重な自然を守り続けたいと思っております。幸いなんですけど、ちょうど生物多様性の丹波戦略の策定に向けた動きが、去年から始まっていますので、今の自然をもう一度見直しながら、丹波市の皆さんにこういう貴重な自然がいっぱいあるんだよということを分かっていただけのように、何とか完成させていきたいなと思っております。どうかよろしく願い申し上げます。

7 丹波市環境審議会の役割説明

(事務局より説明)

(質疑応答 なし)

8 協議・報告

(1) 生物多様性調査・研究部会の継続について

(事務局)

前期から、本審議会の部会として、生物多様性調査・研究部会が進んでおります。今期におきましても、継続して生物多様性に関する調査・研究を進めていく必要がありますので、前期と同様の委員で構成された部会を進めていくことにつきまして、委員皆様のご理解をいただきたいという提案でございます。よろしく申し上げます。

(会長)

事務局から提案があったように、今後も生物多様性調査・研究部会で議論を進めていく必要があると思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし、質疑なし)

(会長)

異議なしと認め、丹波市環境審議会運営規則 第4条第2項に基づき、私から部会の委員について指名させていただきます。

安田真理委員、横山真弓委員、梅垣守明委員、山科ゆみ子委員、三橋弘宗委員、三浦仁志委員、宮川五十雄委員

以上の7名の委員に、引き続きという形になりますが、お願いしたいと思います。委員の皆様、よろしいでしょうか。部会長については、丹波市環境審議会運営規則第4条第4項により、部会に属する委員の互選によって定めとなっておりますので、部会開催時に決めていただくことでお願いします。また、部会の開催については、事務局より通知することでお願いたします。

(事務局)

ありがとうございます。後日、部会開催についてご案内させていただきます。

(2) 第2次丹波市環境基本計画の進捗管理について

(事務局より説明)

(質疑応答)

(会長)

それでは、ただいまの説明について何かご意見やご質問がございましたら、よろしくお願いいたします。

(委員)

何点か修正と質問があります。表紙の写真の裏のページはすでにお気づきかと思いますが、写真の解説のところで、独鈷の滝が市島町になっていたり、「川代溪谷」の「代」の字が違っていたりしています。チェックをお願いします。本題と思っているのは12ページなのですが、2点ありまして、1点は囲みコラムの注目のところで、おすすめポイント②の「他の暖房器具より暖かい」と書いてあるのですが、これはたぶん良くない表現かなと思います。比較で書くのではなく、暖房器具自体の良さを書くのであれば問題ないですが、比較だと市役所の発行物として良くないと思います。また、その上の木質バイオマスエネルギーのところで、1点ご質問なんですけど、進捗状況が△になっているのは、補助台数が少ないという評価だと思うんですけど、たしか毎年伺っていると、予算満額使い切っているというふうに伝え聞いています。しかし、満額使い切ってこの数字ということは、最初からこの数字を達成できないというのをここ何年か続けていたことになるので、その点がどうなっているか教えていただきたいと思います。別件ですが、14ページのトピックスのところで、木の駅プロジェクトの仕組みのところです。地域住民団体が出荷できると書いてあるのですが、出荷は個人もできる仕組みになっていたと思いますので、それを併記していただきたいと思います。とりあえず以上です。

(会長)

ありがとうございました。事務局の方から今、回答できるものがございましたら、お願いします。

(事務局)

そうしましたら、今回回答できる部分につきまして回答させていただきます。最初にご指摘ありました表紙の裏面の文字と地名の間違いにつきましては、修正させていただきます。同じく12ページの薪ストーブの効果の表現につきましても、ふさわしいものになるように変更させていただきます。ひとつとばしまして、14ページのトピックスの木の駅プロジェクトの説明につきましても、申し込みできる対象の方が適切にわかるような表記に変更させていただきます。

もう一つ質問のありました薪ストーブ・薪ボイラーの購入補助台数については、確かに委員のご指摘のように、予算を使い切るだけの申請がありました。ただ、途中で取り下げもありました。年間を通しましたら、ちょうどその件数でいっぱいになっておりますが、この目標に届くだけの予算が確保できていないのが現状です。担当課としてもその点については、目

標と予算の準備が不一致であるということで、この目標の修正をするか、または予算の確保をしていくかという方向で考えています。また、目標を達成できないということは、できるかぎり目標の台数を確保できるように、年数はかかるかもしれませんが、補助制度を続けていきたいと思っています。

(会長)

12 ページのおすすめポイントの文言は何か変えられるということによろしいですか。ほかの暖房器具より暖かい、もう少しキャッチーな言葉をお願いします。

(事務局)

分かりました。ほかの暖房器具の比較ではなくて、薪ストーブ本体のおすすめになるポイントを表記できるように内容を考えていきます。

(会長)

心まで温まるみたいなの。ほかに何かございませんでしょうか。

(委員)

29、30 ページについて、表現が非常に難しいので、私の解釈の違いかもしれないんですが、評価の指導結果の指導とか届出は少ないほど、私の印象的には良いという判断じゃないかと思います。また、それでいうと、29 ページの下の段の景観条例に基づき優しい景観の相互保全の誘導ということで、逆に届出が少ないほど良いのであれば、目標値が上がっていくのはなぜかなということ。その次の屋外広告物の適正指導についても、102 という指導件数が目標より少ないということで◎だという評価で言うと 120 でずっと留まっているのが理解に苦しむというか、表現がどうか、少なくなってもいいのかなと思います。その下の管理不全空き家に対する助言についても指導が少ないほどいいのであれば、目標設置数が少ないままでいいのではないかと、私の解釈とは違うのかもしれませんが、そのあたりご説明いただけたらうれしいです。

(会長)

ありがとうございます。事務局のほうからコメントをお願いします。

(事務局)

委員ご指摘の 29、30 ページの指導件数についてですが、今説明できる状況ではございませんので、改めて確認の上、ご報告させていただきたいと思います。

(会長)

これは数値目標にしているから非常に難しく、本来少なくてもいいと思うんですが、なかなか設定が非常に難しいだろうなと思います。以前にこういう質問があったのかなと思います。ほかございませんでしょうか。

(委員)

今、ご指摘にあったような数値目標の難しさの面だとは思いますが、例えば8ページの災害に強い森づくりの指標の分析のところ、県民緑税100%事業のため、実績は県の予算配分に影響されるという文言がけっこう各地にありまして、◎のところもあれば△のところも、いくつかそういった表現が、県の予算配分に影響されるというような表現があります。あくまでも丹波市の行う事業の目標設定というように、普通、市民は理解しますので、なにもやっていなかったんですかと言われかねないと思います。指標の在り方自体を見直すべきかもしれません。また、こういう表現があると、目標設定、指標って何だということになりかねないかなという表現が散見されるかなと思いました。丹波市の努力としては、こうしたけれども、予算獲得には至らなかった、獲得に向けて努力が必要な案件であるというような、せめてこういう書き方であれば、予算との兼ね合いで今年度は達成できていないという理解にはなるのではないかなと思います。ちょっと人ごとのような、丹波市の目標なのにと感じてしまいましたので、表現をしっかりと検討するもしくは指標の在り方、非常に難しいのであれば、災害地の森づくりをどうしていくのかというところを次の見直しの時でいいので、そういった工夫が必要かなと思いました。ご検討いただければと思います。

(会長)

ありがとうございました。事務局の方はいかがでしょうか。

(事務局)

ご指摘ありがとうございます。委員の言われるとおりでと思います。表現につきましては、確かに県の予算に頼っているというような感じがしますので、表現は検討していきたいと思います。指標につきましては、令和3年まではこの指標で進めさせていただき、改定時期には再度見直しをかけていきたいと思います。よろしく願いいたします。

(会長)

検討いただくということで、お願いいたします。ほか何かございませんでしょうか。

(委員)

38ページのトピックスですが、平成30年5月のことをあげてらっしゃるんですが、去年と同じ記事のような気がします。ホトケドジョウを守る会は毎年活動をされていますし、もち

ろんホトケドジョウを守る会でもいいですし、他の団体でもいいんですが、令和元年度の取組を書かれたらよいのではないかと思います。

(会長)

いかがでしょうか。

(事務局)

ご指摘いただきました 38 ページのトピックスにつきまして、確かに記事の内容が昨年度と同じになっておりますので、日付を最新の状態に変更するもしくは令和元年度に活動されておられる団体の記事を作成するというので、なるべく令和元年度の活動が伝わるトピックスにしていくという方向で考えさせていただけたらと思います。

(会長)

よろしいでしょうか。

(委員)

平成 30 年の月日は、環境課の職員が来られたときですね。平成 18 年から毎月調査をしておりますので、環境課の方々にもどのような調査をしているかわかってもらうために参加してもらっています。今年も 8 月に来ていただきまして、全部調査地を回りまして説明しています。今年は、教育委員会からも来られまして一緒に見てもらっています。他の団体の活動を取り上げていただいてもいいですが、なんでしたら今年のことを取り上げていただいてもいいんじゃないかなと思います。

(会長)

ホトケドジョウというのが丹波市の生物多様性を表す特徴のひとつですから、これでもいいのかなと私は思いますが、もっと他にいいトピックスがあったらそれでもいいかと思えます。そこはまたお考えいただければと思います。ほかいかがでしょうか。21 ページの上の温室効果ガス排出量が増えているんですが、これは仕方ないんでしょうか。廃プラの稼働によってこうなっていると考えたらよろしいのでしょうか。

(事務局)

21 ページの温室効果ガス排出量につきましては、氷上支所の方が担当しておりますので、調査のことを書いていると思いますが、確認の方をさせていただきます。次回で、申請なのか、実績なのか確認をさせていただきます。

(会長)

わかりました。お願いいたします。ほかにいかがでしょうか。

(委員)

先程、氷上回廊の話題がでて、見直してみましたが、トピックスという扱いはちょっと違うのではないかと思います。氷上回廊は丹波市の象徴的なものであって、私の先入観かもしれませんが、トピックスというのはある一地点を切りとった特徴というふうなイメージを持っているんですが、氷上回廊というのが未来永劫にわたって、この地形が存在する限り、トピックスというイメージより取り扱いがもっと大きい、丹波市の象徴的なものになってもよいのではないかと思います。

(事務局)

委員の言われました 37 ページのトピックスの件について、確かに言われたとおり、これは丹波市にとってトピックスの位置づけではないのかもしれませんが。

(委員)

特徴的なもので、丹波市を環境面で説明するときの恰好の材料とは思いますが、トップ出して紹介するのはいいと思うんですけど、トピックスという扱いはどうかと思います。

(事務局)

委員のおっしゃるとおり、これから氷上回廊は全面に出していく必要がございます。これは切り取る部分ではなく、代表する部分だと思っていますので、氷上回廊とホトケドジョウは常に丹波市内外に発信していくものだと考えております。これから条例も設置していく考えでございますので、こういうところはしっかりと市民の皆様、市外の皆様に発信していくものだと考えております。トピックスという扱いは考えさせていただきたいと思います。

(会長)

トピックスという名前は変えて、PR は重要だと思います。はい、ほかはどうでしょうか。7 ページに○×表の一覧が載っているわけですが、おおむねすごく頑張っていらっしゃるのは分かるのですが、ピンク色の基本目標の 2 の「資源を大切にするライフスタイルの定着」というところが他と比べると◎がなくて、指標的なものが何かよくないのでしょうか。何か社会情勢的なもので達成するのが難しいというような状況なののでしょうか。指標的に少し難しい指標を使ってらっしゃるのかな。温室効果ガス、排出ガスは対処可能ですが、それ以外は少し難しいのかなとそんな気がしているところです。

(事務局)

確かに19ページから指標があると思います。目標のところには◎が一つもなく、○と△だけです。指標につきましても、19ページの一人当たりのごみの発生量はもともと目標としては減少傾向にあるという目標を立てたわけでありましたが、今のところ、発生量は増えてきている状態です。これにつきましては、全国的にみれば、一人当たりのごみ量は増えてきている状況になっています。リサイクルの資源化につきましても、少し減少傾向にあります。目標の設定というところで厳しい状況だったという点もありますが、令和3年度まではこの目標で進めて行きたいと思います。今後、見直しが必要になってくるのかなと考えております。

(会長)

例えば、公共交通の利用のような指標も結構出ているんですが、昨今のコロナの影響を考えると、ますます達成が難しい状況になってきているので、見直されたほうがいいのかと思います。

(事務局)

ありがとうございます。毎年報告するのですが、令和2年度はコロナウイルスの関係がありますので、ごみの量についても公共交通の利用についても変化があるのだろうと考えております。

(会長)

ほかどうでしょうか。だいたい出尽くしたと考えてよろしいでしょうか。たくさん色々と意見がでましたので、これについては、次回に修正版がでてくるということですか。もう一度審議するということでもよろしいか。もう一回審議ができるということですので、今日の意見を受けて、修正していただき、もう一度審議させていただきたいと思います。ありがとうございました。それでは次に進ませていただきたいと思います。次は第2次環境基本計画の改訂について事務局のほうからご説明をよろしくお願いいたします。

(3) 第2次環境基本計画の改訂について

(事務局より説明)

(質疑応答)

(会長)

ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問がございましたら、よろしくお願いいたします。では私の方から、改訂の中でとりこめるかどうかは分かりませんが、コロナが流行してしましまして、新しい生活様式ということも言われています。

もう一つは日本全体の話ですが、IT化が非常に遅れておることが明確になっているということですので、ITを活用するというのは、都市部よりもおそらく郊外のほうがよりもっと効果的に運用できるのではないかと思うところもあります。環境とか生物多様性のなかに、どのようにしてITという技術を導入していくのかということも積極的に考えていく。そういったことが少し重要じゃないかなと。人手をかけるというのもなかなか難しいわけですから、そういった観点で議論ができればいいのかなと希望的には思っています。生物多様性についてはあまり分かっていないので、勝手なことを言っているんですけども、ご意見ありますでしょうか。〇〇委員、何かございませんか。

(委員)

ITとかAIというのは国の議論のなかでもたくさん進んでいて、生物多様性の分野に意見は色んな所から出ていますが、今はこの報告書を見ていただいて、生物多様性という文字がまだ出てきてないので、ITをやる前に生物多様性に関する取組を次の5か年のなかに項目立てて入れていくことが先決で、その内容を楽にするためにITを使っていただくといいのかなと思います。

(会長)

環境報告書にリンクさせるのも重要かもしれませんね。ほかはどうでしょうか。

(委員)

ポストコロナを入れることは必須になってくるだろうということで、ある意味で、先程、会長が指摘された資源を大切にするというライフスタイルの定着をすることが、おそらく丹波市のライフスタイルがなかなか指標とか計画にあってこなかったというところがあったということだったので、今、丹波のライフスタイルが今一度どうなっているのか現状把握をして、しっかり分析をして、何が課題なのかをもう一回洗いなおすというのが次の改訂にむけての必要になってくると思います。ポストコロナで「移動」ということがだいぶなくなってきているので、ある意味ではチャンスだと思います。そのあたりの吟味が必要になると感じました。あと生物多様性のところでは、折角ですので、受け身というよりは、むしろ情報発信をしていくというときには、ITを活用して、ここにはこういった資源があるということをしっかり発信していくチャンスになると思いますので、丹波発の生物多様性の保全の他とは異なってユニークな点を、水分れをしっかりとPRしていくということは、是非とも、十分吟味してしっかり見せていただきたいと感じています。よろしくをお願いします。

(会長)

ありがとうございます。ほか何かございませんでしょうか。あと、私は大阪府の環境審議会にも入っておりまして、そこで大阪府民に対しまして、「生物多様性という言葉を知ってい

ますか。」というアンケートを実施しています。知っているという方は16%だというのが現実みたいなのです。言葉自体は知らなくても、実践しているというのはあるのですが、生物多様性という言葉自体がほとんど理解されていないというのが現実なので、生物多様性というのは、ここにいらっしゃる皆さんはよくご存じだと思いますが、なかなか浸透してないんじゃないかなというのも気になっています。やはり普通の人が普通にわかるということがまずないと、なかなか進まないということ。うまく発信していくことが非常に重要じゃないかと思います。私も16%はびっくりしています。それが実際みたいですね。ほかはどうでしょうか。やはり10年は長いです。5年で一回見直すのが重要であるのではないかと思います。またこれについても、この委員会の中で審議していただければよいかと思います。続きまして、氷上回廊保全条例（仮称）について事務局よりご説明お願いいたします。

（４） 「氷上回廊保全条例（仮称）」について

（事務局より説明）

（質疑応答）

（会長）

では、今の説明に関しましてご意見、ご質問はございましたら、よろしくお願ひいたします。これはもっと上位で条文が決められていくということで、この環境審議会はこれに対して、何か意見をいうといった位置づけでよろしいでしょうか。

（事務局）

内容につきましては、条例の案ができたときに審議会でお諮りをさせていただくことになるかと思ひます。

（会長）

ほかにかがででしょうか。よろしいでしょうか。方向性としては市全体を巻き込むような条例となると思ひますので、また案が出てきたときには、ご審議のほどよろしくお願ひいたします。これはこれでよいというふうにさせていただきたいと思ひます。次に審議会の開催日程について、事務局よりご説明よろしくお願ひいたします。

9 丹波市環境審議会開催日程（予定）

（事務局より説明）

（会長）

本日の丹波市環境審議会の会議録の署名は〇〇委員にお願ひいたします。

10 閉会

(副会長)

本日は、大変お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございました。丹波市環境報告(案)についても、色々ご意見いただきまして、次回修正案が出るとお思いますので、またよろしくお願ひしたいとお思います。また、生物多様性についてもこちらから発信していくチャンスだということで、すごく前向きなとらえ方で、今後も丹波市でないと出せないような丹波戦略ができればいいなとお思いました。本日は本当にご苦勞様でした。